

# 今こそ 「ONE関西」として 一つに

公益社団法人 関西経済連合会  
会長

松本 正義



会員の皆さんにおかれましては、ここ数カ月、国内外の社員やそのご家族の健康を守りながら事業活動を維持するという、極めて困難な課題に立ち向かっておられるものと存じます。これまでのところ、国民を大きなパニックに陥れるような物資・サービスの不足は見られず、かつ、人と人との接触についても大幅な減少が見られていることは、皆さまのご尽力の賜物であり、あらためて敬意を表したいと存じます。

また、多くの医療従事者の献身的なご努力への感謝を忘れることはできません。そして不幸にも命を落とされた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、世界経済および日本経済は急速に収縮しております。われわれ経済界に求められているのは、当面は、感染の収束と再拡大の防止に努めながら、経済の一日も早い立ち直りに向けて、雇用を維持し、われわれの持つリソースを活用したさまざまな形での貢献・協力をしていくことであります。

関経連いたしましては、困窮する方々や事業者への支援策の充実を政府に求める10項目の緊急要望を5月8日に取りまとめました。これは、これまでに決定された対策の実施状況や効果、課題、要望などに関して会員の皆さんにアンケート調査を行い、お寄せいただいた声を集約したものです。そのひと月後の6月8日には、第2弾として8項目の要望を打ち出しております。

また、医療・検査体制の充実は、経済・社会活動の安心のために不可欠です。これまで当会では、会員企業の皆さんへ医療物資の協力・寄附のお願いや

企業関連施設の登録の呼びかけをしてまいりました。加えて5月25日に開催した第2回理事会にて承認いただき、「関西・新型コロナウイルス医療体制支援基金」を設けさせていただきました。すでに多数のお申し出をいただいておりますが、感染拡大の第2波への医療の備えを盤石にし、経済への影響を和らげるための一助として、この基金への皆さまの積極的なご寄附をぜひともお願いしたいと存じます。

2020年度は、コロナの影響が大きいなかで第1四半期を終えておりますが、今年度は当会の第3期中期計画の最終年度にあたります。コロナ禍の闇を抜けたあとに関西経済が回復し、再び力強い成長軌道に戻るよう、コロナの影響をふまえた各種事業の練り直しも検討しながら、中長期の発展戦略をしっかりと見据え、会員の皆さんとともに着実に前に進めていかなければならぬと思っております。その際には2025年大阪・関西万博が、これまでにも増して、大きな意味を持つであろうことは言うまでもありません。

コロナの影響ははかりしれず、おそらく収束後の世界は、これまでの世界とは大きく変わっていることでしょう。このような時は、これまでに十分なスピード感を持って進められなかったことに一気呵成に取り組むチャンスです。そして、このコロナ禍の先にどのような前向きな目標を見いだすことができるかが私たちに問われています。今こそ「ONE関西」として地域が一つになり、この難局を乗り越え、新たな発展戦略に取り組んでいこうではありませんか。